

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 5名回答、回答率 100%
保護者様： 13名回答、回答率 80%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・送迎車には置き去り防止ブザーを設置、毎日のミーティングでは送迎表を用いて、送迎時間や送迎場所、ルート、担当者の確認を行い、送迎時の安全管理の徹底に努めている。
- ・事務室や訓練室内において、児童の手の届かない位置にある小窓を開けて、2方向の換気を常時行っており、感染症の蔓延防止に努めている。

○業務改善

- ・保護者等から要望や相談があった際には、必ず全職員に共有の上教室内ミーティングを実施し、業務改善に繋げている。
- ・虐待防止研修、階層別研修、責任者研修、外部講師による性教育研修等に職員全員が参加し、資質の向上に取り組んでいる。

○適切な支援の提供

- ・契約時や半年ごとのモニタリング時には児童発達支援管理責任者が保護者と面談を行い個別支援計画を作成し、計画に沿った療育を実施している。
- ・集団療育は毎月異なるテーマで実施している。活動プログラムが固定化しないよう、過去の活動内容を振り返りながら職員全員で分担、プログラムの立案をしている。

○関係機関や保護者との連携

- ・地域で開催されているアート展への出展など、地域イベントへの参画を通して交流を図っている。
- ・学校、他事業所、相談支援員等との情報共有は積極的に行っており、支援会議には児童発達管理責任者が参加をしている。会議の開催が難しい時には、送迎時に学校と支援方法の共有を行うなどの工夫をしている。

○保護者への説明責任等

- ・療育参観の機会を設け、事業所での取り組みや様子をお伝えしている。
- ・定期的にブログの更新を行い、事業所からの情報発信に努めている。

○非常時等の対応

- ・怪我や事故に繋がる危険性のある出来事があった際には、ヒヤリハットを作成し、必ず職員間で共有をしている。
- ・ハザードマップを作成し、月に1回、毎回異なるテーマで避難訓練に取り組んでいる。定期的に防災点検表の備品確認も行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・子どもの活動等のスペースが十分に確保されているかの質問には、8割の方から「はい」と回答をしていただいた。「人数が多い時にはやや狭く思う」との意見もいただいた。

○適切な支援の提供

・個別支援計画や活動プログラムに関する項目について回答者全員からよい評価をいただいた。一方、放課後児童クラブや児童館等、障害のない子どもとの交流の機会については、「いいえ」の回答が目立った。

○保護者への説明等

・支援の内容や利用者負担等についての説明、育児に関する助言が実施できているかについては全回答者から「はい」との回答を頂き、児童の発達状況や課題についても共通理解ができているという評価を頂くことができた。
・支援内容について詳しく説明を行っている分、送迎時の説明には時間的に保護者の負担になってしまうという意見もあった。連絡帳への記載内容や電話連絡、事業所内相談支援、家庭連携支援等、状況やご家庭に応じて工夫していく必要がある。

○非常時等の対応

・避難訓練について、保護者会やブログで取り組みの様子を報告することができ、保護者様からの評価に繋がった。マニュアルの周知については一部「どちらともいえない」「いいえ」との回答がみられたため、再度、周知や説明を行っていくようにしたい。

○満足度

・事業所の支援に満足しているかの質問には9割の方から「はい」と回答していただくことができた。「中学生になっても利用したい。小学校と同じように送迎も行ってほしい」とのご意見もいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・社内研修への参加や教室内研修の実施を通して、職員一人一人の知識やスキルの向上に取り組む。
・近隣の公園での課外活動を企画、実行する。
・感染症対策としてオンラインの活用や少人数毎にするなどの工夫を行い、保護者会の実施を実現する。

○改善できた点・まだ残る課題

・階層別研修、虐待防止研修等の社内研修に職員全員が参加し、教室内研修にて振り返りを行うことで職員一人一人の知識やスキルの向上に取り組むことができた。
・長期休暇や祝日などを利用して、地域の公園や商業施設などへ課外活動を定期的に行い、地域交流を図ることができた。
・9月に保護者会を実施することができたが、曜日や定員の関係上、参加できていない方もいるため、今後も定期的に保護者会の実施を検討する。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・連絡帳でのやりとり、送迎の引き渡しの際の情報共有において、保護者や学校と児童の状況について細かく伝え合うことができ、連携して支援を行うことができている。
- ・絵カードやひらがなカード表を利用したコミュニケーションなど、児童の発達段階や特性に合わせて支援ができる環境や体制の整備が行えている。

○改善点

- ・保護者会については9月に開催したが、年1回の開催にとどまったため、下半期から新規ご利用者や曜日の関係上参加できていない方もおり「どちらともいえない」「いいえ」の回答がみられた。「保護者向けの研修や交流会をお願いします」とご意見もいただいた。今後も定期的に保護者会の開催を検討していく。
- ・高学年の児童も増えてきている。集団療育の中でも個々の発達段階に応じた目標設定を行っていく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・引き続き学校や他事業所、相談支援員等の関係機関と連携のもと、児童の成長に繋がる統一した支援を行っていく。
- ・小学校卒業後の進路選択について多様な選択肢を提示できるよう情報収集を行う。
- ・職員それぞれのスキルアップにより、これまで以上に保護者のニーズや児童の発達段階に応じた集団療育を実施できるようになる。
- ・保護者同士の交流の場や研修の機会を増やしていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・他事業所等での児童の様子をお伺いし、状況に応じて関係機関と支援会議を行う。
- ・高学年のご利用者も増えてきたことから地域の中学校や支援学校、就労支援事業所とも連携を行い、進路選択について情報収集を行うとともに、就学時にスムーズに移行できるよう連携を行う。
- ・集団療育の中で個別の目標設定をより適切に行うために、児童それぞれに役割を与えるなどの工夫を取り入れる。
- ・保護者会を実施し、教室での療育の様子や保護者同士の交流の場を年に2回設ける。